

2018年9月19日
株式会社電通デジタル

電通デジタル、インフルエンサーのセンスを活かした 動画広告制作・配信ソリューション「MOVIE GENIC 2.0」を提供開始 ～「Instagram」に加え、対象 SNS を「TikTok」「Facebook」「Twitter」に拡大～

株式会社電通デジタル（本社：東京都港区、代表取締役 CEO：山口 修治、以下電通デジタル）は、インフルエンサーの動画広告を制作・配信するソリューション「MOVIE GENIC 2.0（ムービージェニック 2.0）」を、9月19日より提供を開始します。

当社では2017年9月に、株式会社 TWIN PLANET（本社：東京都渋谷区、代表取締役：矢嶋 健二、以下ツインプラネット）と共同で、「Instagram」に特化したインフルエンサーを活用した動画広告制作・配信ソリューション「MOVIE GENIC」[※]を開発・提供し、大手食品メーカーや大手化粧品メーカーをはじめとする数多くの事業会社の Instagram Stories 広告を制作・配信してきました。そしてこの度、「MOVIE GENIC 2.0」として、「Facebook」「Twitter」とサービス対象 SNS を増やし、さらに株式会社サイバー・コミュニケーションズ（本社：東京都中央区、社長：新澤 明男、以下 CCI）を通して、昨今急激に利用者が増えている「TikTok」においても展開をはじめます。

昨今、スマートフォンやタブレットなどモバイル端末ユーザーによる SNS 利用の一般化と、通信インフラ環境の整備とプラットフォームの進化に伴い動画コンテンツの閲覧・投稿は増加し、ユーザー間のコミュニケーションの一部となっています。また、動画広告はその訴求力の高さから企業のマーケティング活動においても重要視されています。

今回対象 SNS のひとつである「TikTok」は、ユーザーが簡単に個性あふれる動画を編集し、約 15 秒のオリジナルビデオとして、友達をはじめ世界中の人々に共有できるショートムービーアプリで、若年層を中心にユーザーが拡大しています。「TikTok」の動画広告では、世界観に合わせた映像センスが求められるため、本サービスでは「TikTok」のインフルエンサー自身が撮影・編集することによって、彼らの世界観を最大限に活かす仕組みを構築しています。これにより広告主は、ブランド認知、アプリのインストール、購買意向などの指標を向上させることが可能になります。

本サービスにおける 3 社の主な役割は、電通デジタルのクリエイティブチーム アドバンストクリエイティブセンターが動画広告の企画・ディレクションを担当します。CCI は「TikTok」をはじめとする SNS の広告の配信からレポートまで担い、ツインプラネットはインフルエンサーのマネジメントを行います。

今後も電通グループは、広告主のさまざまなニーズに応じていくため、多様なプラットフォームを対象に、より効果的な広告コミュニケーションのあり方を研究し、新しいサービスの開発・提供を進めていきます。

<電通デジタル アドバンスクリエイティブセンターについて>

データ・AI とクリエイティブの融合を目指し、2017年4月に新設された事業部です。認知度や好意度を向上させるブランドリフト広告から、顧客獲得のためのダイレクトレスポンス広告（バナー／ランディングページ（LP）／オンライン動画／ソーシャル広告）までを統合的に設計・制作し、広告配信の成果に合わせて改善のためのPDCAを行っています。広告の第一線で活躍するクリエイティブディレクター、コピーライター、アートディレクターや、ダイレクトレスポンス広告に関する知見・ノウハウを有するコンサルタントやディレクターなど、数十名のスペシャリストが在籍しています。

URL : <http://advancedcreativecenter.com>

【本件に関する問い合わせ先】

株式会社電通デジタル コーポレートコミュニケーション部

竜野・島津 TEL : 03-6217-6036

Email : press@dentsudigital.co.jp

【事業に関する問い合わせ先】

株式会社電通デジタル アドバンスクリエイティブセンター

近藤 TEL : 03-6217-6008